



上越市立大潟町小学校

潟小だより

令和4年12月



NIE実践研究発表会

11月22日（火）、NIE（新聞活用教育）実践研究発表会を開催し、2学級で授業を公開しました。

- ・3年2組（社会「はたらく人とわたしたちの暮らし」）
- ・5年1組（総合学習「大潟の魅力、再発見！」）（上写真）

子供たちは多くの参観者に囲まれ緊張しながらも、研究テーマの「前向きに学習に取り組む児童」そのものの姿を見せていました。3年2組は、いちじく農家の見学内容を新聞にまとめるためのグループ学習でした。偶然にも5年1組でもいちじくが話題となり、大潟特産として活用を広げたいという提案を基に活発な話し合いが行われていました。市内外の参観者から両学級の子供たちの積極的な学習姿勢に称賛の声をいただきました。

12月8日（木）に3年2組では、この学習でお世話になったいちじく農家の方と新潟日報社の新聞記者を招き、みんなで考えた「黒糖蒸しパンいちじくジャムのせ」をデザートにした給食を囲んで交流を深めました。この時、子供たちは、研究会の公開授業で内容を考えその後書き上げた新聞を各学級に配り、デザートとともに紹介していました。自分たちの学習成果が新聞や給食という形になり、みんなに知ってもらえたことが喜びと自信につながったようです。



2学期を振り返って

2学期開始早々、新型コロナ流行のため6年1組で学級閉鎖をしました。発熱や濃厚接触等、新型コロナ関連により全校で50人前後が欠席する日が続きました。

そのため、翌週に予定していたジャンボ遠足が延期になりました。また、リコーダーや合唱などは飛沫が飛ぶおそれがあるとされて音楽練習ができなくなったため、学習発表会も中止になりました。今年こそはと開催が期待されていただけに、保護者や地域の皆様には、子供たちが発表する姿を直接御覧いただくことができなくなり、たいへん心苦しく思っています。みんなの力で作り上げ大きく成長する学習発表会という貴重な機会を失ったことが残念でなりません。

更に、11月末からも新型コロナの感染が広がり、3年、2年、1年と1週ごとに学年閉鎖となりました。実施時期が重なった学習参観が中止、個別懇談でも多くの保護者が来られなくなってしまいました。

一方で、学習発表会が予定されていた10月21日にジャンボ遠足を実施。さわやかな秋晴れの下、Jチーム（縦割り班）ごとに区内5か所から選んだ目的地に向かいました。道中には絆を深めるミッションも設定され、コロナ禍の制約から飛び出し、心と心が通い合う和やかな一日を満喫しました。

また、朝学習や絆タイムが軌道に乗り、落ち着きが見られるようになってきました。朝の会の後、漢字の復習やドリル学習をしたり、新聞記事を取り上げたワークシートに向かったりすることで、学習モードのまま1限の学習に移れるようになりました。読むことや書くことへの抵抗感も薄くなってきたようです。木曜昼休み後、絆タイムの15分間も、それぞれの学級で工夫し、楽しみながら仲間との人間関係を強める時間となっています。

更に、5年生は、鵜の浜人魚館の創業25周年記念事業で壁画を描いて、地域に貢献するという願ってもない機会に恵まれました。学習の成果が長く地域に残ることは、子供にとって誇らしく、地域への愛着が一層強くなる経験になりました。

コロナによる変更や緊急措置によって、保護者の皆様には御苦勞や御心配、残念な思いをさせてしまうことが多々あり、申し訳なく思います。しかしその中でも、子供たちの成長もたくさん見られました。皆様の御理解と御協力に感謝申し上げます。

うれしい学校表彰

夏休みの課題の一つとした「親子でチャレンジ小学生夏休み新聞スクラップコンテスト」に多くの子供が参加したため、新潟日報社から団体賞をいただきました。NIEの実践が認められとてもうれしく思います。新聞等の情報に興味をもち、社会の動向に目を向け考える力が育つことを願っています。

